

◎競技会運営に関する確認事項

ジュニア記録会の競技会運営方法について、従来型（選手権方式）の方法から、記録会方式へ変更し、時間の短縮と業務のスリム化を図りたいと考えます。

各学校におかれましては、下記の点について、関係職員並びに出場生徒への周知徹底をお願いいたします。

【参加校引率の先生方へお願い】

本競技会については参加校の引率の先生方を中心に役員（審判）割りをしております。各校の先生方におかれましては、役員一覧をご確認していただき、ご協力のほどお願いいたします。なお、以下の点についてご一読お願いいたします。

1. 出発方法について

トラック種目において、スタート前に行うスタート練習や流しを行わないものとする。

【短距離系種目の出発方法】

- ・スターティングブロックの設置後、すぐにスタート体勢に入り、速やかにレースを出発させる。

【リレーの出発方法】

- ・第1 走者は短距離系種目の方法と同様とします。
- ・第2～4 走者は、スタートマークを付けたら、直ちにスタート位置につくこと。
- ・4×100mR のマーク設定後のダッシュ等の練習は行わない。
- ・出場校はレーンを確実に確認してレースに臨むこと。  
※スターティングブロックを使用しての練習は、ウォーミングアップで十分に行い、レースに臨むよう、各学校においてご指導をお願いします。  
※トラックレース中であっても、レースに支障がない限り、空きスペース（トラックのアウトレーン等）での練習を許可する。

【中・長距離種目の出発方法】

- ・前レースが終了したら直ちに、スタートする。  
※トラックレース中であっても、レースに支障がない限り、空きスペース（トラックのアウトレーン等）での練習を許可する。

【スターターの目安】

- ・1レース時間の目安を以下の通りとする。

100m	1'30"以内
200m	2'30"以内
400m	3'00 以内
800m	4'00 以内
1500m	7'00 以内
3000m	15'00"以内
5000m	20'00"以内
ハードル設営・撤去	5'00 以内

## 2. ラウンドについて

記録会につき、決勝ラウンドは実施しない。

## 3. 試技数

跳躍競技、投擲競技については、試技を3回とし、ベスト8での試技は行わない。

## 4. 招集方法

### 【トラック種目】

- ・招集所で腰ナンバーカードを受け取り、現地において最終コールを行う。

### 【跳躍、投擲種目】

- ・フィールド競技：招集所で招集を受け、現地で確認を受けること。

※2種目同時に競技が行われる競技者については、はじめの競技招集時に必ず招集所に申し出をして、次の競技の招集も受けるように徹底させること。

## 5. ハードルの設置等の競技の準備

レース中であっても、競技に支障がない限り、ハードル等の設置を行い、時間的短縮を図る。

- ・400mH の設営については前レース中にハードルを準備できる態勢をとっておく。

## 6. 結果の表示

競技結果についてのアナウンスは行わない。

すべて掲示により結果発表を行うこととする。

各競技のレース及び試技結果をソートし、順位付けしたものを掲示発表する。

## 7. 走高跳のバーの高さについて

男子は中学、高校共に1m30cm、女子は中学、高校共に1m15cm から競技を開始する。

## 8. アップについて

今大会はサブトラックが使えません。そのためアップについては周回競技が無い場合、安全に留意してバックストレート等を利用してアップを行って下さい。

## 9. その他

記録会方式による業務のスリム化によって、競技役員の負担を軽減したいと考えております。新たな運営方法で、競技進行に戸惑うこともあるかと思いますが、趣旨ご理解の上、出場校並びに競技役員、出場選手の御協力をお願いします。